



平成30年8月20日

(会 派 名) 市民グループ未来の会  
(会派代表者) 前 川 昌 也 殿

(会 派 名) 市民グループ未来の会  
(氏 名) 東 原 章

調査研究, 要請・陳情実施報告書

下記のとおり実施したので報告します。

1. 期 間 平成30年8月6日(月曜日)から  
平成30年8月8日(水曜日)まで
2. 視 察 先 北海道苫小牧市, 北海道室蘭市  
(要請・陳情) (北海道北広島市は台風の為中止)
3. 参加議員名 前川昌也, 大藤匡文, 村井孝彦, 植條敬介  
鳥飼年幸, 大前寛乗, 若谷修治, 東原 章
4. 調査研究, 要請・陳情の概要

別紙のとおり

※ 要請・陳情先は相手先の所属・職名・氏名を記入して下さい。

## 苫小牧市

### 【まちなか再生総合プロジェクトについて】

#### ① 事業開始に至った経緯

苫小牧市は、人口は約17万3,000人、面積は561km<sup>2</sup>で、半分は山林で市街地は十数キロメートルの横長のまちである。若い世代が多いということ、トヨタ自動車北海道株式会社の関係者の流入があり、若い世代が増え王子製紙やトヨタ、出光興産など、港を中心に工業の盛んな地域となっている。人口の今後の推移は、約30年後には約3万人減少し、それに伴い15%ほど高齢化が進むということで、将来は人口が減少した上、超高齢化社会になると考えられている。それによる影響は、1点目は経済の縮小、消費の低迷、2点目は若い世代の減少による税収の減少、高齢者の増加による医療費の増加、生活保護費の増加で、徐々に収入が減少する中、いかに当市の効率化を考えた街づくりをできるかということに考え方を転換する必要があると考え、過去に一番投資し、さまざまな機能がそろっている中心市街地を中心にまちづくりを進めていくべきではないかということになった。

#### ② まちなか再生総合プロジェクトについて

CAPはCentral Tomakomai Active Projectの頭文字をとったもので、平成23年6月に策定され、毎年年度版として更新している。CAPの特徴は、民間企業や商店街組合と協力しながら、ソフト事業を中心に組み立てをしていることである。それにより、民間の活力を誘発し、まちのにぎわい、交流人口、居住人口を増やし、その結果として持続可能な街づくりをしていく計画で、従来の中心市街地活性化と少し視点をずらした計画となっている。また、この計画はスピード感を持って取り組むこととしており、計画を見直す必要がある場合には柔軟に対応するというので、完成された計画ではないとのことである。CAPの基本方針として、3つの方針を掲げており1つ目は、にぎわいの創出、2つ目は、まちなか居住の推進、3つ目は、公共交通の利便性の向上である。

#### ③ 主な事業について

##### 【にぎわいの創出】

コトマ管理事業、空き店舗・空テナント活用事業、子ども・若者まちづくり参加推進事業

##### 【まちなか居住の推進】

まちなか居住支援事業、まちなか居住ニーズ調査事業

##### 【公共交通の利便性の向上】

バスマップ事業、バス利用者満足度向上事業

#### ④ 所感

一番に驚いたのは、一般的な自治体では事業に際して5年～10年単位でPDCAサイクルに基づき管理したり、中間見直しを行っているが、苫小牧市では各施策は毎年、事業計画としては3年という速いサイクルでPDCA管理しているのも特徴的である。また、地域住民や各種団体の皆さんだけでなく、将来のまちづくりの担い手である子どもたちとともに、まちへの愛着と誇りをもってもらうということはとても大切なことだと感じた。本市の児童生徒にまちづくりに参画してもらおう施策を考え提案していきたい。

## シティプロモーション (工場夜景・食等) について

室蘭の夜景は、昭和 11 年に発行された観光絵はがきの 1 枚に「夜の室蘭」という作品があり、すでに認知されていた。昭和 36 年に「室蘭夜景観賞会」を開催。翌年 8 月 1 日に「室蘭夜景まつり」を開催予定していたが、台風接近により中止になった。以降開かれていない。昭和 63 年 7 月 29 日から 31 日に開催された「むろらん港まつり」に合わせて電波塔をライトアップ。市民からの意見で常設点灯を決定し 11 月 26 日より、希望の灯・測量山ライトアップ点灯を開始した。以降毎日 (昭和天皇崩御の 3 日間は自粛) 点灯し、平成 28 年 4 月 1 日には連続点灯 10,000 日を達成した。市民団体「室蘭ルネッサンス」が市民からの寄付金などで現在も続けている。平成 20 年に「室蘭観光推進連絡協議会」を市役所・商工会議所・観光協会の 3 者により、夜景だけでは集客力が弱い (札幌の藻岩山や函館山の夜景は有名)、さまざまな観光資源を組み合わせた複合的な魅力を発信したい思いから立ち上げた。当初、市民対象の夜景見学会だったものを、観光資源になるよう工場夜景、測量山ライトアップ、白鳥大橋などバリエーションを整え、夜景見学バスツアーやナイトクルージングを行っている。特にバスツアーは普段では入ることが出来ない場所 (工場内等) を解放してもらい好評を得ている。今後の課題として、札幌や函館などにアクセスが良いため宿泊や食事などは両市に取られているような状況で、なんとか食と宿泊もセットにしたい。

今年、初の試みとして滞在型フォトコンテスト「撮りフェス in 室蘭 2018」を開催した。これは、室蘭で 24 時間写真を撮ってもらって、コンテストをする企画で、工場夜景や人工的な景色、また自然の景色など映画・ドラマ・CM 撮影などで注目を集めていることから、多くの参加者で成功裏に終わった。今後も、室蘭を撮影の聖地に！をスローガンに開催していきたい。市としては、助成金等を出していない。備品の貸出や民間施設の利用 (撮影のための出入り許可等) についてお願いする程度である。

### 【所 感】

どこの観光でも同じだが、いかに他の魅力と組ませて、独自のお得感や魅力を倍増させていくかが課題で、特に温泉のない地域では宿泊してもらうために苦労している。その中で滞在型イベントは良い考えだと思われた。制限時間 24 時間。市内ならどこで撮影しても良い。ただ天候に左右されたり、写真家など

は車中泊で、コンビニで食事は済ませるなど課題も多い。ただ、作品を観光ポスターや市外での写真展などで使用して市のPRなどに使える。工場に大橋、写真など坂出市とよく似た環境をフルに生かそうとしている点は参考になる。姉妹都市をお願いしても、いいような感じを受けた。

夏休みに室蘭、冬休みに坂出、子どもたちの笑顔が見えた視察であった。

